

## 1. 地域を盛り上げたい、ローカル線の無人駅（谷之口駅・内之田駅）

JR日南線の谷之口駅、内之田駅は単式ホーム1面1線を有する無人駅。平均乗車率は10名以下ではあるものの、地域の人にとっては大事な交通手段。地域の人たちの思いが詰まった形、乗降客数アップにつながる新たな使い方を待っている。

## 2. 超絶景！岬のレストラン

まずは「猪崎鼻 よしの」でグーグル画像検索を。景色が最高なロケーションに驚くはず。間も無く300万円ほどで売りに出る予定。オーナーはあと数年で猪崎鼻のお店を閉めて日南市街に引っ越す予定で、このロケーション、リソースをどんな価値に変えるか新たなオーナーを待っている。

## 3. 年間5,000人が訪れる無人島

日南市南郷の沖合い約3kmに位置している海岸総延長9.37kmの大島。1950年代には300人から400人あった人口も過疎化が進み、現在は無人島に。1980年に閉校した大島小学校の校舎を改装し、市営アドベンチャーキャビン・コテージを創設。目井津港からは市営の旅客船が運航され、年間約5千人が利用しているが、その過半数は釣り客で大島そのものの利活用が求められている。

## 4. 日本三大運河のほとりにある家

日本三大運河の一つ、堀川運河は1686年に完成。運河の完成により、木材搬送の大改革が実現し、飢肥林業は飛躍的に発展した。毎年「堀川運河まつり」が開催され、地域の人で賑わう。平成4年には、堀川運河に架かる堀川橋を舞台に「男はつらいよ寅次郎の青春」が撮影された。堀川運河の辺りのは、現在の建築基準法では認められてない、運河にそのまま降りられる設計の家がある。これらの物件の利活用を求める（現在のものを使い続ける限りは適法）。



## 5. ITベンチャー14社が入る油津商店街

都市部のIT企業のサテライトオフィスが続々と開設。中には本社よりも人数が多いオフィスもできている。昭和の雰囲気ただよう寂れた商店街の中には大勢の若者たちの職場がたくさんあり！

## 6. 日本の前例は日南がつくる（スタートアップ行政）

企業と協業しながら新しいチャレンジを続けている。横並び行政から「ありたいまちを実現する」ために動く行政！個別アセットも、応募者と話し合っって最適なものを提案できるかも？！

## 7. 観光農園 in 日南

作り手の農家、自らマーケットにリーチする事例が増えてきています。食材ベースで探すいろんな利権が立ちはだりますが、ベンチャーマインドをもった農家さんベースで探すとまだまだ出来ることがたくさんあります。

